

平成27年度 魚沼市特別活動部 活動報告

部長 梅田 勝

1 研究主題

親和的な学級づくりへの挑戦

～温かい学級づくり支援事業（2年次）を通して～

2 研究の概要

当市では昨年より全小・中学校で「温かい学級づくり支援事業」を立ち上げ、主に「学力向上」と「いじめ・不登校の減少」を目指す取組を行ってきた。特別活動部員は各校の支援事業の中心者を担っている。具体的には、年3回実施されるQ U調査を基に学級集団の実態を分析し、具体的に指導に活かす実践を行うと共に、本年度から「温かい学級づくり自校化プラン」に基づいて各校で実践している。

市の小学校特別活動部会を以下のように開催した。

(1) 特別活動部 夏季研修会

日 時 8月20日（木）

内 容 実践レポートを基にグループ協議、全体会

(2) 各会員が年間2回の実践レポートによる実践集の作成

(3) 市の公開授業や中学校区での研修会の実施



3 研究の実際

(1) 「温かい学級づくり支援事業」2年目となり、各校の取組が始まった。そこで、特活部の夏季研修会では、各人が1学期に取り組んだ実践を持ち寄り、グループ協議会を実施。特に「親和的な学級づくり」のための実践では、「ルールづくり」とその徹底を図るための話し合い活動や視覚化、学級目標の設定のための話し合いが話題となった。「児童会活動」では、縦割り班活動などの異学年交流や代表委員会を定期的に開催するなど、全校の組織的な活動が話題に上がった。

(2) 「特別活動」が市の重点となっていることから、各自が1学期及び2学期以降の実践レポートを集約・製本することで、本年度の成果と課題を明確にする。

(3) 市内小中学校で、特活の公開授業研究会が3校実施された。参加者は「親和的な学級づくり」こそ、学力向上の基盤であることを確認し合った。また、中学校区でも、「親和的な学級づくり」を目指して、特別活動部員を中心に研修会を開催しているところもある。ある中学校区では、夏季休業中に、上越教育大学の赤坂真二教授を講師に集団づくりのポイントや自治的な集団づくりのためのポイントについて講義を受けた。

4 成果と課題

(1) 「温かい学級づくり支援事業」の成果を公開授業研究会で検証した。中学校1校、小学校2校が公開授業研究会を実施し、「親和的な学級づくり」の取組が、どのように授業で展開されているのかをお互いに確認し合った。特に、中学校での話し合い活動は、小学校にとってよいモデルとなった。

(2) 「親和的な学級づくり」を目指しての取組の中でも、話し合い活動を意識して積み重ねていくことで、自治的な集団へと高まってきている。

(3) すべての学級が自主的・自治的な学級集団の構築に向けて、全校体制で取り組めるようにすることが今後の課題である。